

令和元年度

全国学力・学習状況調査
福岡県学力調査

柳川市立小・中学校 調査結果の概要



令和元年10月

柳川市教育委員会

令和元年度 全国学力・学習状況調査、福岡県学力調査

柳川市立小・中学校 調査結果の概要

－ 目 次 －

I 調査の概要	2
1 調査目的	
2 調査対象	
3 調査日及び調査教科	
4 調査内容	
II 学力調査結果の概要	
全国学力状況調査の結果	3
1 柳川市の平均正答率の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学、英語）	
2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学、英語）	
福岡県学力調査の結果	6
1 柳川市の平均正答率の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学）	
2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学）	
III まとめと今後の取組	8
1 学力向上に向けた柳川市教育委員会の基本方針	
2 柳川市立各小・中学校の学力向上についての取組の状況と課題	
3 柳川市児童生徒の学力向上に向けての施策と基本構想	

※ 付記

全国学力・学習状況調査の「学力調査問題」及び「児童生徒質問紙調査」「学校質問紙調査」の内容及び平成令和元年度の全国の調査結果と福岡県の調査結果以下のホームページにてご参照ください。

○ 全国学力・学習状況調査の問題及び結果（既に掲載）

国立教育政策研究所

教育課程研究センター 「全国学力・学習状況調査」 [URL : http://www.nier.go.jp/](http://www.nier.go.jp/)

○ 福岡県学力調査の結果（福岡県教育委員会ホームページに掲載予定）

福岡県教育委員会 義務教育課

「令和元年度全国学力・学習状況調査調査結果報告書・福岡県学力調査結果報告書」

[URL : http://pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/21321051/](http://pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/21321051/)

令和元年度 全国学力・学習状況調査、福岡県学力調査

柳川市立小・中学校 調査結果の概要

I 調査の概要

1 調査目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、柳川市教育施策に基づく取組の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

○ 全国学力・学習状況調査	・ 小学校 (全 19 校) 第 6 学年の児童 ・ 中学校 (全 6 校) 第 3 学年の生徒	545 名 512 名
○ 福岡県学力調査	・ 小学校 (全 19 校) 第 5 学年の児童 ・ 中学校 (全 6 校) 第 1 学年の生徒 ・ 中学校 (全 6 校) 第 2 学年の生徒	549 名 483 名 495 名

3 調査日及び調査教科

調査種別	調査日	調査教科及び項目
○ 全国学力・学習状況調査	平成 31 年 4 月 18 日 (火)	国語(小・中)、算数(小)、数学(中)、英語(中)
○ 福岡県学力調査	令和元年 6 月 18 日 (火)	国語(小・中)、算数(小)、数学(中)

4 調査内容

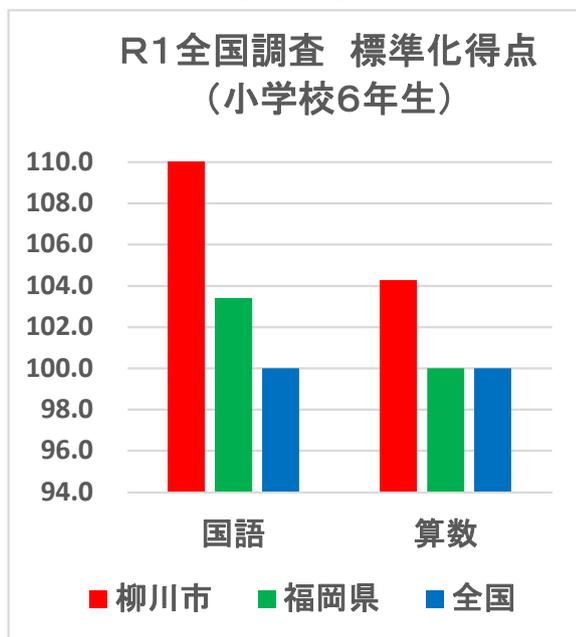
主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
○ 全国学力・学習状況調査 [国語、算数・数学、英語]	
○ 福岡県学力調査 [国語、算数・数学 基礎問題]	○ 福岡県学力調査 [国語、算数・数学 活用問題]
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身につけておかねばならず、後の学年等学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などに関わる内容 ・ 様々な課題解決のための構想を立て、実践・評価する力などに関わる内容

Ⅱ 学力の結果

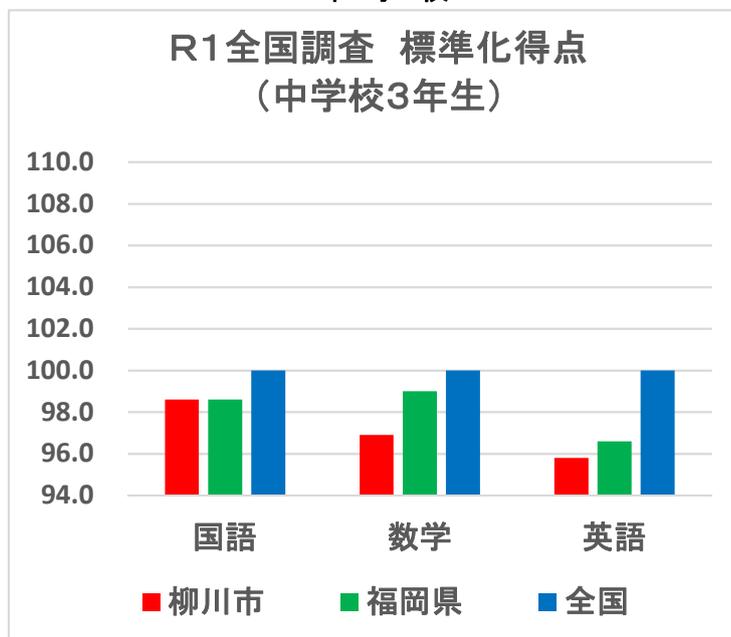
全国学力状況調査の結果

1 柳川市の標準化得点の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学、英語）

小 学 校



中 学 校



小学校	国語	算数
柳川市	110.1	104.3
福岡県	103.4	100.0
全国	100.0	100.0

中学校	国語	数学	英語
柳川市	98.6	96.9	95.8
福岡県	98.6	99.0	96.6
全国	100.0	100.0	100.0

【全体の状況】

- 小学校は、国語、算数ともに全国を上回っているが、30年度より低下している。（30年度の柳川市との比較 国語-0.2ポイント 算数-7.2ポイント）。
- 中学校は、国語、数学は全国を下回っているが、30年度より向上している。（30年度の柳川市との比較 国語+5.2ポイント、数学+6.7ポイント）英語については、全国と比較すると4.2ポイント低下している。
- 平均無回答率（回答していない問題）は、小学校では国語、算数とも全ての問題において全国より少ない。中学校では無回答率が全国より高い。特に、数学の無回答率が高い。（16問中10問が無回答率が高い）

【小学校】

- 国語は全国より10.1ポイント上回った。評価の観点では、特に、「言語についての知識・理解・技能」と「話すこと・聞くこと」の能力が高い。
- 算数は全国より4.3ポイント上回った。特に、評価の観点の「数量や図形についての技能」は全国より高いが、「知識・理解」は、全国より低かった。

【中学校】

- 国語は全国より1.4ポイント下回り、福岡県と同様の結果であった。昨年度の柳川市と比較すると、5.1ポイント向上した。
- 数学は全国より3.1ポイント下回った。しかし、昨年度の柳川市と比較すると6.6ポイント向上した。
- 英語は全国より4.2ポイント下回った。

2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学、英語）

（1）小学校国語

- 領域別では、どの領域も全国より正答率が高い。「話すこと・聞くこと」は6.3ポイント、「書くこと」は3.6ポイント、「読むこと」は3.9ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は8.2ポイント上回り、良好である。
- 問題形式では、選択式、短答式、記述式のいずれも全国より正答率が高い。特に、短答式では、全国より正答率が9.2ポイント上回っていた。
- 「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」は、正答率が全国を10.9ポイントも上回り、高い理解を示している。
- 「目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む」は、正答率が全国を6.1ポイント上回り、理解度が高い。
- 「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする」は、正答率が全国を5.3ポイントも上回り、高い理解を示している。
- 「かんしんをもってもらいたい」の下線を漢字を使って書き直す問題に、やや課題がある。

（2）小学校算数

- 領域別では、どの領域も全国より正答率が高い。「数と計算」は3.5ポイント、「量と測定」は1.8ポイント、「図形」は1.0ポイント、「数量関係」は1.7ポイント上回り、良好である。
- 14の問題の内、11の問題が全国を上回っている。全般的に理解の定着が進んでいる。
- 「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる」は、正答率が全国を10.5ポイントも上回り、良好である。
- 「示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算ができる」は、正答率が全国を8.6ポイント上回り、良好である。
- 「示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除数に関して成り立つ性質を記述できる」は、正答率が全国を7.1ポイント上回り、良好である。
- 「示された除法の式の意味を理解している」は、正答率が全国を1.7ポイント下回り、課題である。
- 「資料の特徴や傾向を関連付けて、一人あたりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる」は、正答率が全国を1.6ポイント下回り、課題である。

（4）中学校国語

- 「文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ」は、正答率が全国を0.8ポイント上回り、良好である。
- 「相手について分かりやすく伝わる表現について理解する」は、正答率が全国を0.8ポイント上回り、良好である。
- 「話合いの話題や方向性を捉える」は、全国を0.5ポイント上回り、良好である。
- 「封筒の書き方を理解して書く」が全国より4.5ポイント下回り、課題である。

- 「話し合いの話題や方向性を捉えて自分の考えをもつ」は、正答率が全国より2.4ポイント下回り、課題である。
- 4つの領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」）全てが、全国の正答率を下回っている。

（5）中学校数学

- 「反比例の表から、XとYの関係を式に表すことができる」は、正答率が全国を4.2ポイント上回り、良好である。
- 「問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することができる」は、正答率が全国を2.9ポイント上回り、良好である。
- 「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」は、正答率が全国を2.3ポイント上回り、良好である。
- 「証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している」は、正答率が全国を8.3ポイント下回り、課題である。
- 「簡単な場合について、確率を求めることができる」は、正答率が全国を6.9ポイント下回り、課題である。
- 「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる」は、正答率が全国を5.1ポイント下回り、課題である。
- 領域別では、「関数」は全国より正答率が上回っている。しかし、「数と式」「図形」「資料の活用」は、全国より正答率が低かった。

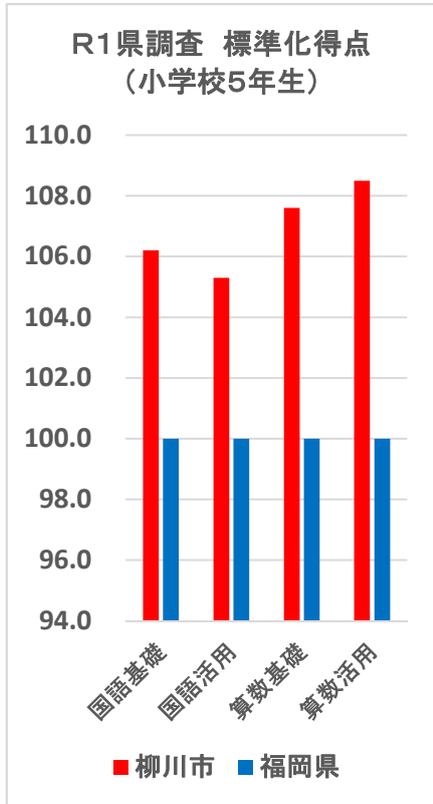
（6）中学校英語

- 「日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる」は、正答率が全国を2.9ポイント上回り、良好である。
- 「日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる」は、正答率が全国を2.1ポイント上回り、良好である。
- 「まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる」は、正答率が全国を3.6ポイント下回り、課題である。
- 「聞いて把握した内容について、適切に応じることができる」は、正答率が全国を2.9ポイント下回り、課題である。
- 領域別では、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」は、全国より正答率が低かった。

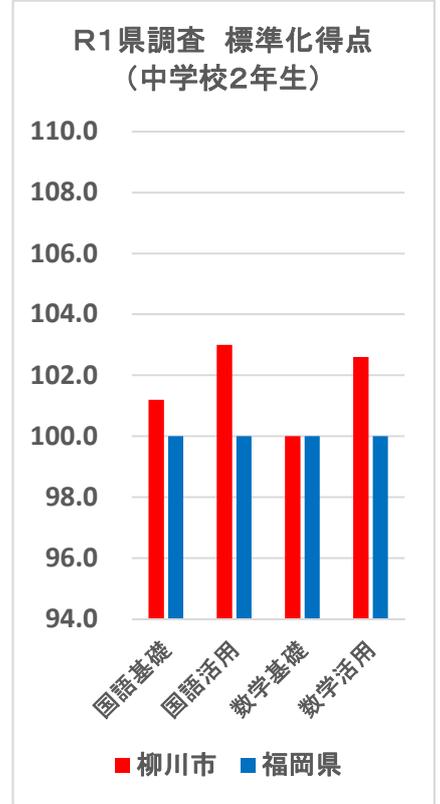
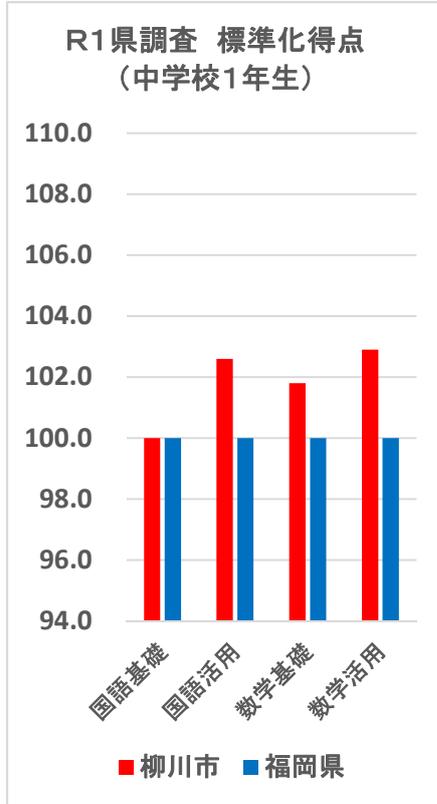
福岡県学力調査の結果

1 柳川市の標準化得点の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学）

小 学 校



中 学 校



小学 5年	国語 基礎	国語 活用	算数 基礎	算数 活用
柳川市	106.2	105.3	107.6	108.5
福岡県	100.0	100.0	100.0	100.0
県差	6.2	5.3	7.6	8.5

0 中学 1年	国語 基礎	国語 活用	数学 基礎	数学 活用
柳川市	100.0	102.6	101.8	102.9
福岡県	100.0	100.0	100.0	100.0
県差	0.0	2.6	1.8	2.9

中学 2年	国語 基礎	国語 活用	数学 基礎	数学 活用
柳川市	101.2	103.0	100.0	102.6
福岡県	100.0	100.0	100.0	100.0
県差	1.2	3.0	0.0	2.6

【全体の状況】

- 小学校5年生においては、国語、算数の基礎・活用問題の全てが県を上回っている（+5.3ポイント～+8.5ポイント）。
- 中学校1年生においては、小学校5年生と同様に、国語、数学の基礎・活用の全てが県を上回っている（0.0ポイント～2.9ポイント）。
- 中学校2年生においては、小学校5年生・中学校1年生と同様に、国語、数学の基礎・活用の全てが県を上回っている（0.0ポイント～3.0ポイント）。

2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学）

（1）小学校5年生

【国語】

- 「主語と述語との関係に注意して、文を正しく書くことができる」が、県正答率を5.7ポイント上回っている。
- 「ことわざの意味と使い方を理解することができる」が、県正答率を5.0ポイント上回っている。

- 「感想を読み比べて、読み方の違いをとらえることができる」が、県正答率を4.3ポイント上回っている。
- 「文章の内容を的確に読み取ることができる」が、県正答率を1.1ポイント下回っている。

【算数】

- 「棒グラフと折れ線グラフを関連付けて、変化に着目していることを解釈し、説明することができる」が、県正答率を9.5ポイント上回っている。
- 「口の字型の面積の求め方を表す式を読み取ることができる」が、県正答率を8.6ポイント上回っている。
- 「直方体の展開図を理解することができる」が、県正答率を8.3ポイント上回っている。
- 「100分の1の位までの小数の計算ができる」が、県正答率を0.1ポイント下回っている。

(2) 中学校 1 年生

【国語】

- 「話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができる」が、県正答率を4.4ポイント上回っている。
- 「二つの詩を比べて読み、自分の考えを書くことができる」が、県正答率を4.4ポイント上回っている。
- 「手紙の構成を理解し、後付けを書くことができる」が、県正答率を4.2ポイント下回っている。

【数学】

- 「5種類の色から4種類の色を選ぶ組み合わせの総数を求めることができる」が、県正答率を5.5ポイント上回っている。
- 「飲み物を3.2になるように容器に分けるときの、それぞれの容器の量を求めることができる」が、県正答率を4.8ポイント上回っている。
- 「比例の関係を、XとYを使って式に表すことができる」が、県正答率を1.7ポイント下回っている。

(3) 中学校 2 年生

【国語】

- 「文章の展開に即して内容を読み取ることができる」が、県正答率を4.7ポイント上回っている。
- 「物語の内容や登場人物の心情などをとらえて、自分の考えを書くことができる」が、県正答率を3.3ポイント上回っている。
- 「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができる」が、県正答率を1.7ポイント下回っている。

【数学】

- 「総度数の意味に基づいてヒストグラムから必要な情報を適切に選択することができる」が、県正答率を6.2ポイント上回っている。
- 「与えられたグラフを用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することができる」が、県正答率を5.5ポイント上回っている。
- 「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」が、県正答率を4.2ポイント上回っている。
- 「与えられた度数分布について、ある階級の相対度数を求めることができる」が、県正答率を4.3ポイント下回っている。

Ⅲ まとめと今後の取組

1 学力向上に向けた柳川市教育委員会の基本方針

柳川市教育大綱、教育施策に基づき、小・中学校9年間にわたって「学ぶ目的意識の醸成」を図りながら、確かな学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等）を身につけさせ、未来の柳川を担う子どもを育成すること。

2 柳川市立各小・中学校の学力向上についての取組の状況と課題

(1) 小学校

- ほとんどの小学校において、国語科教育の充実として校内研修に位置付けたり、学習のまとめを徹底したりしたことが、学力向上への要因のひとつと考えられる。
- 柳川市教育研究所において作成した「授業づくりQ&A」を活用したことが効果的であった。また、学習規律の徹底も有効だったと考えられる。

(2) 中学校

- 全中学校において調査結果から自分の考えを書く活動を位置付けたり、校内授業研究改善研修会を実施したりしたことが学力向上につながってきている。
- 学校間、教科間、学年間の格差がある。また、教師の授業力のさらなる向上も課題である。授業研究を伴う研修の強化が求められる。

(3) 小・中学校共通

- 本市が重視している計画・実施・評価・改善の教育活動が各学校で実施されている。また、児童・生徒のよい点や可能性を見だし、評価する取組もしっかりと推進されており、学力向上に結びついていることが伺える。
- 全校において学力分析から確実に学力を向上させるための取組指標や成果指標等の学力向上プランが策定され、取り組まれている。
- 中学校区内において、近接小・中学校と授業研究会等の合同研修会を実施し、共通的に取り組む内容等を検討・分析し、情報を共有しながら9年間見通した児童・生徒の育成が求められる。
- 小・中学校共に、自分によいところがあるという意識が全国に比べて低い傾向を示しており、自尊感情の醸成が求められる。真に児童・生徒の活動を価値付けたり、意味づけたりする必要がある。

(4) 家庭との連携

- 家庭における計画的な学習の進め方の確立や学習時間の確保、家庭での読書時間の確保が求められる。
- 本市の児童・生徒の携帯電話やスマートフォンの所有が増える中、それらの使用についてのルールが不十分な傾向が見られる。テレビ視聴時間を含めて、家庭において早急にルールを決めていく必要がある。

3 柳川市児童生徒の学力向上に向けての施策と基本構想

(1) 柳川市教育委員会

- ・調査結果の分析
- ・学力向上の基本構想の策定
- ・各学校の取組状況の確認・指導
- ・学力向上のための指導主事派遣
- ・研修・啓発資料の作成
- ・授業時数実施状況の確認
- ・9年間を見通した小・中学校の共通実践
- ・教育研究所プロジェクト事業の推進

(2) 小学校

◎学校実態に応じた短期的取組、中・長期的取組の設定

- ・教材研究の力を向上させる校内研修の充実(模擬授業等の事前研究会の工夫)
- ・中学校とのつながりを意識した教育活動の実施
- ・若年教師の授業力の向上を図る研修会等(OJT)の実施

(3) 中学校

◎学校実態に応じた短期的取組、中・長期的取組の設定

- ・模擬授業や事例研究を含めた授業を伴う実践的な研修の実施
- ・全職員による自校の学力分析と学校全体での改善
- ・週案の定着と活用

(4) 小・中学校共通の取組

【各小・中学校で共通で実践する項目】

- <小・中学校>
 - ◎柳川スタンダードの策定
 - ・幼保小連携
 - ・学習規律
 - ・生活習慣
- <小学校>
 - ◎国語科教育の充実
 - ・校内研修への位置づけ(一般研修)
 - ・「授業づくりQ&A」の活用
 - ・学習のまとめの徹底
 - ◎特別活動の重視
 - ・代表委員会活動の充実
 - ・地域行事等への参加
- <中学校>
 - ◎思考力を育てる授業づくり
 - ・校内授業研究改善研修会の実施
 - ・自分の考えを書く活動の位置付け
 - ◎定期考査問題の改善
 - ・思考力、判断力、表現力を問う問題づくり
 - ◎特別活動の充実
 - ・リーダーの継続的な育成
 - ・地域行事への参加

【教育課程外において】

- ◎補充学習の充実
 - ・評価に基づく補充学習の充実
 - ・各学校教育課程外に位置づけているドリルタイム、補充の時間の充実
- 家庭学習の充実
 - ・家庭学習をしない児童・生徒0%を目指す取組の充実(授業との連動、確実な見取り、保護者との連携等)
 - ・携帯電話やスマートフォン使用に関するルールの啓発

令和元年度
全国学力・学習状況調査
福岡県学力調査

『調査結果報告書(柳川市)』

令和元年10月発行

発行者 柳川市教育委員会
福岡県柳川市三橋町正行431番地
電話0944-77-8852(教育指導室)
